

『看護教育学研究

発見・創造・証明の過程 第2版』

初版後9年間の研究成果が
盛り込まれた
教育研究者必携の書

著：舟島なをみ／定価：3,990円(本体3,800円+税5%)

発行：医学書院／TEL：03-3817-5657



本書の初版が出版されたのは2002年、今から9年前である。当時は、高齢化社会の到来に向けて国民の健康を守るための重要な専門職として、大学教育による看護職育成が推進され、看護系大学が100大学、大学院が54研究科へと増設された社会情勢であった。この社会ニーズに応えるため、看護教育者らによって新たな看護学教育の理念、目的、教育課程の検討が行われるようになった。2002年9月に大学基準協会から「21世紀の看護学教育」が発表され、注目を浴びたが、その直前に看護学教育に携わる者が日々どのような姿勢で看護教育を探究していくべきかというバイブルともいえる本書の初版が出版されたのである。

内容構成の核は「看護教育学研究の体系」「看護教育学研究のための方法論」である。そして、看護教育学研究の膨大な研究成果から、看護教育学研究を体系化し、看護学教育の理論を開発していくために必要な研究方法とは何かを、また看護教育学研究を行ううえで重要な方法論を述べている本書の骨格は、初版も第2版も変わっていない。また、9年前に出版されたときに多くの方が称賛した膨大な研究成果および緻密な整理および構築の素晴らしさは今も息づいており、改めて初版を読み直しても色あせていない。第2版は初版のすばらしさを失うことなく、むしろ多くの発展した内容を加えた書といえる。

初版では看護教育学研究が基盤研究、基盤研究発展型応用研究、研究課題確定型応用研究、社会要請対応型応用研究、統合研究という体系化と内容が研究の具体例をもとに解説されていたが、統合研究の具体例は例示されていなかった。研究成果の活用可能性という視点からの具体例の提示を行うには、初版の時期では十分でないという判断から見送られたようである。しかし、今回の第2版では、複数の研究成果を整理・統合し、実践への適用を意識した、まさに看護実践の研究とはこれであるというような複数の具体例を提示し、統合研究の内容が追加されている。さらに、「看護教育学研究のための方法論」では、「看護教育学における先行研究分析—方法論と研究の実際」という章立てで、先行研究の分析の意義と分析の展開の仕方が加筆されているが、ここでも、わかりやすい具体例が例示されている。また、Berelson, B.の方法論を基盤にした看護教育学における内容分析が詳細に論述されているのも魅力的な内容である。このように、本書は、初版後の9年間に著者が粘り強く根気よく継続し、蓄積してきた研究成果がたくさん詰まった書である。

看護教育携わっている者、これから携わる者、また研究の具体例が詳細に例示されているので、若手研究者にとっても役立つ書である。